

文化財ニュース No.61

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター

文化財調査研究センター ■所在地 〒675-0101 加古川市平岡町新在家1224-7(中央図書館2階、JR東加古川駅から北へ徒歩約10分) ■電話 (079)423-4088 ■FAX (079)423-8975 ■事務取扱時間 平日9:15~18:00(土・日曜、祝休日、12月29日から翌年1月3日まで、毎月第2月曜は休所) ■ホームページ <http://www.city.kakogawa.lg.jp>

中世墓の発見が続く

平成29年の発掘調査では、別府町石町と八幡町上西条で、中世墓の発見が続きました。いずれも、12・13世紀頃の中国龍泉窯系の青磁碗が副葬されていました。とくに石町中世墓は、中世における埋葬習俗を知る上で多くの情報を持った遺跡と考えられます。

石町中世墓は、山陽電鉄別府駅から南へ約300mのところに所在する鎌倉時代から南北朝時代頃(12世紀末-14世紀)の中世墓です。小さな石製の祠と石造五輪塔が置かれていた別府八幡神社跡地で、進入路設置工事に伴い新たに発見された遺跡です。関係者のご理解とご協力のもと、9月を中心に記録保存のための発掘調査を行いました。

発掘調査の結果、周囲に石敷きの溝を巡らせた土坑に2個の須恵器の壺を並べるように埋納したものや、須恵器の甕を蔵骨器として土坑に埋納したもの、火葬した遺骨を直接埋葬したようなものなど、当時の埋葬にかかわる複数の墓を確認しました。

出土した遺物には、蔵骨器として利用された壺や甕などの須恵器のほか、土師器の鍋や中国製の青磁碗などがありました。これらの遺物のほかに注目できるものとして、粘土板に仏像を彫りだした埴仏の破片が出土したことがあげられます。



石町中世墓全景

石敷きの溝を巡らす区画墓は、平安時代末期の『餓鬼草紙』に描かれている卒塔婆を標とした土盛に石敷きをめぐらせる墓の場面を想起させるもので、注目されています。

もうひとつの遺跡は、八幡町の雁戸井地区ほ場整備事業に伴い11月に記録保存のための発掘調査を行った古堂廃寺という遺跡です。平安時代(9世紀-12世紀)頃の掘立柱建物跡1棟、溝状遺構1条、土坑3基、ピット数十基と、鎌倉時代(13世紀)頃の墓坑1基を検出しました。

墓坑からは、副葬品と考えられる中国製の青磁碗1点、国産の土師器の皿5点が完形の状態で出土しました。墓坑の四隅に礫石が据えられ、壁面には木質の痕跡が認められたことから、木棺墓と考えられます。

今後、出土した遺物の整理を経て、発掘調査で得た情報は、文章、図面、写真などにまとめ、誰でも閲覧できる報告書として記録保存されます。

私たちの身近なところには、未来に伝える必要のある情報を持った文化財がたくさんあります。

市民の皆様には、ご迷惑をおかけすることもあります。埋蔵文化財をはじめとする文化財の調査に対して、今後ともご理解ご協力くださいますようお願いいたします。



石町中世墓の埴仏出土状況



古堂廃寺で検出した墓坑

新しい指定文化財

3月2日の定例教育委員会会議で、文化財審議委員会の答申を受けた加古川町北在家鶴林寺所蔵の「木造聖徳太子立像（植え髪の太子像）」と加古川市教育委員会保管の「天坊山古墳出土品一括」が、新しく市指定文化財に加わりました。

その結果、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（うち国宝2件）39点、県指定32件54点、市指定67件1,420点と、国登録9か所37件となりました。

これらの指定文化財をはじめ、市内にはたくさんの文化財があります。現在に生きる私たちは、地域の文化財を、心豊かな生活のために活用していくとともに、次世代に継承していく役割を担っています。

新指定

天坊山古墳出土品一括 24点 市指定 考古資料
青銅鏡2点（仿製獣形鏡 径14cm、画文帯神獸鏡片 復元径12.6cm）、銅鏃4点、鉄剣3点、鉄槍1点、鉄刀1点、鉄鏃4点、刀子1点、鏃1点、鉋1点、鉄斧2点、鉄鎌1点、棒状鉄器1点、管玉1点、土師器1点
古墳時代前期／4世紀

加古川市教育委員会 平岡町新在家1224番地7
（加古川総合文化センター博物館に展示中）

天坊山古墳は、上荘町小野の標高163mの山頂に所在する直径約16mの円墳で、埋葬施設に2基の竪穴式石室をもつ古墳時代前期の古墳です。今から50年前の昭和43（1968）年に超音波反射塔建設工事に伴って発見され、詳細は、発掘調査報告書で報告されています。

この古墳の副葬品は、青銅鏡2面、そして、鉄剣や鉄斧をはじめとする武器や農工具の多くの鉄器です。これらは、前期古墳の特徴的な性格を示すものとして注目されてきたものであり、近くにある長慶寺山古墳出土品とともに、加古川市域北東部の古墳時代前期の様相を考える上でたいへん貴重なものです。



天坊山古墳出土品

木造聖徳太子立像 1 軀 市指定 彫刻
木造彩色、寄木造、玉眼
像高 82cm

鎌倉一室町時代／13-15世紀

鶴林寺 加古川町北在家424番地

鶴林寺の聖徳太子信仰の隆盛を示す本像は、聖徳太子作と伝えられ、太子の遺髪が植えられていると伝えられていることから、植え髪の太子像と呼ばれています。

玉眼を嵌入する寄木造の全身彩色の像で、中世の肖像彫刻の特徴を示しており、上半身の下衣と下半身の袴、現代で言うところの下着の姿を彫り表されたものです。

太子が、16歳の時、父である用明天皇の病氣平癒を柄香炉を捧げて祈願している姿、いわゆる孝養像と考えられている本像は、重要文化財の髹漆厨子の中に安置されており、もとは国宝の太子堂の中にまつられていましたが、現在は、厨子とともに宝物館に保存されています。秘仏のため、通常は拝観できませんが、3月下旬の太子会式など特別の日に公開されています。

この像は、頭部に実物の髪を植え付け、実物の上衣を着せることを想定して下衣だけを彫出表現した聖徳太子像として特異性を示すもので、彫刻史上意義があるものです。



木造聖徳太子立像
（写真は画質調整しています。）

調査と報告

埋蔵文化財発掘調査

教育委員会では、埋蔵文化財保護のため、平成29年1月から12月までに、宅地造成、住宅建設などの191件の届出に対し、記録保存の必要な、八幡町の雁戸井地区は場整備事業及び別府町石町の進入路設置に伴うもの計4件について本発掘調査を実施しました。雁戸井地区は場整備事業に係る上村池遺跡は3月4日に、石町中世墓は9月27日に、それぞれ発掘調査現地説明会を開催しました。

その他、遺跡の破壊の恐れがある23件の開発事業について埋蔵文化財確認調査を実施し、遺跡の可能性のある開発事業について6件の試掘調査を実施しました。



上村池遺跡発掘調査現地説明会のようす

確認調査では、溝之口遺跡(加古川町)、観音寺城跡(志方町)、前谷遺跡、東沢4・5号墳(いずれも八幡町)など6件の遺跡等で遺構を確認し、試掘調査では、石町中世墓の発見につながる遺構を確認しました。

埋蔵文化財の保護のため、一般に「遺跡」と呼ばれている「周知の埋蔵文化財包蔵地」内で、土木工事を行う場合、地中を掘る行為の60日前までに「発掘届」という届出をしなければならないことが文化財保護法で定められています。その届出に基づいて、埋蔵文化財の保護を行う必要があれば、協議をすることになります。工事と埋蔵文化財保護を円滑に進めるために、土木工事等の計画がある場合は、早めに文化財調査研究センターにご連絡ください。

その他の文化財調査

埋蔵文化財のほか、市指定文化財事務に係るもの、^{どうひょう}道標の情報提供に係るもの、市指定文化財・古墳・石仏の現状確認など11件についての調査等を実施しました。

文化財報告書刊行のお知らせ

平成29年1月から12月までに刊行した文化財報告書等は以下のとおりです。文化財調査研究センターをはじめ関係施設・機関で閲覧することができます。

『加古川市西条古墳群人塚古墳』 (2017年、A4判226頁)加古川市文化財調査報告25	非売品
『史跡西条古墳群保存整備事業報告書』 (2017年、A4判172頁)加古川市文化財調査報告26	非売品
『史跡西条古墳群～保存整備事業の概要～』 (2017年、A4判12頁)	非売品 (配布用、残部有)
『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 (2017年、A4判60頁)加古川市文化財調査報告27	非売品
『中道子山城跡発掘調査報告書Ⅱ』 (2017年、A4判48頁)加古川市文化財調査報告28	非売品

文化財関係出版物

文化財調査研究センターでは、文化財関係出版物の販売を取扱っています。購入をご希望の場合は、

直接、来所ください。郵送の場合は、送料などが必要です。詳しくは文化財調査研究センターまで。

【普及図書】

『加古川市誌第二巻(別府町誌)』(1971年、A5判1083頁)	5,000円
『加古川市の文化財』(1988年改訂、A5判123頁)	1,000円
『加古川市文化財図録』(1995年、A4判107頁)	3,800円

【文化財調査報告書】

『加古川市遺跡分布地図』(1994年改訂、A4判291頁)	1,800円
『西条廃寺』(1985年、B5判79頁)	700円
『加古川市の民俗』(1985年、B5判291頁)	1,200円
『加古川市埋蔵文化財集報I』(1983年、B5判28頁)	500円
『東中遺跡発掘調査報告書』(1981年、B5判106頁)	1,200円
『山之上遺跡I』(1977年、B5判8頁)	200円
『岸遺跡』(1972年、B5判23頁)	200円
『奥新田西古墳発掘調査報告書』(2000年、A5判41頁)	500円

保護と活用

教育委員会では、市内の文化財保護のための事務を行うとともに、文化財保護意識啓発のための事業を行っています。文化財の公開、説明板の設置、講座の開催、講師の派遣、指定文化財の保存管理事業に対しての補助などです。

また、文化財保護協会をはじめ、地域の団体や機関とともに、文化財の保護と活用に取り組んでいます。

これらの事業について、ご相談や情報提供がある場合は、文化財調査研究センターにご連絡ください。

行者塚古墳の樹木伐採・^{ばっさい}^{せんてい}剪定

教育委員会が管理している国史跡西条古墳群の中の行者塚古墳において、平成29年2月に、景観など史跡の保全と見学導線の確保のため、樹木4本の伐採と高木9本の剪定を行いました。近隣住民や見学者の皆さまから要望・意見を受けていたものです。

文化財講座

文化財調査研究センターでは、毎年、地域の歴史や文化財についての理解を深めるための事業として文化財講座を開催しています。

平成29年度は、青少年女性センターを会場に、11月5日(日)「行者塚古墳の豊かな副葬品～帯金具を中心に～」(藤井康隆先生)、11月18日(土)「墳丘からみた西条古墳群」(一瀬和夫先生)、12月2日(土)「5世紀の倭と西条古墳群」(菱田哲郎先生)の3回の文化財講座を開催し、延べ222名の皆様の参加がありました。

文化財の公開

少年自然の家（東神吉町天下原）の敷地内にある県指定文化財本岡家住宅においては、建物内部に農耕具を中心とした民具、そして、屋外には、昔の池尻集落で洪水災害の救助に使用されていた水防飛来船という救助船や、野尻集落への道標などを展示しています。

毎年、こどもの日（5月5日）、文化財保護強調月間（11月下旬）、少年自然の家無料散策日に建物の内部を特別公開しています。

お問合せは、文化財調査研究センターまで。また、少年自然の家無料散策日については少年自然の家（☎432-5177）まで。



県指定文化財 本岡家住宅

また、加古川総合文化センター博物館では、西条古墳群の行者塚古墳からの出土資料、市内の遺跡から出土した考古資料や市民の皆様から寄せられた民具など、貴重な資料を展示しています。

そのほか、国指定史跡の西条古墳群、県指定史跡の古代寺院跡である西条廃寺（山手二丁目ほか）、そして、近代の農業用水の水路橋で移設保存された市指定文化財の平木橋（野口町水足）、その他、里古墳（平荘町里）、西山大塚古墳（平荘町西山）、石のタライ（加古川町溝之口）については、いつでも見学することができます。

教育委員会が保管している資料は、各地から調査、展覧会等貸出、出版物等掲載などの依頼があります。平成29年1月から12月までに、7件の調査を受け入れ、加古川総合文化センター特集展示、大阪歴史博物館特別展「渡来人いずこより」、群馬県立歴史博物館企画展「海を渡って来た馬文化」の展覧会等に11件394点（うち継続は2件310点）の貸出しを行い、8件53点の出版物等への掲載承諾を行いました。

加古川市歴史文化基本構想を策定します

加古川市内に所在するさまざまな文化財を、その周辺環境までを含めて総合的に把握し、加古川市の歴史と文化をまちづくりに活かすための適切な保存

及び活用のあり方を示す「加古川市歴史文化基本構想」の策定準備を進めています。

そのために、平成29年度は、市内に昔から伝わる祭礼や行事の現状を確認するなど、各地域の歴史文化の素材や情報の収集を行ってきました。平成30年度は、引き続き調査を行いながら、構想内容を検討し、実質的な構想策定を終えたいと考えています。

市民の皆さまには、加古川市の既存の計画書や報告書に掲載されていない事項の提供、パブリックコメント時のご意見など、ご協力くださいますようお願いいたします。

地域文化遺産活性化事業の推進

この事業は、我が国の「たから」である地域の多様で豊かな文化遺産を活用した、伝統芸能・伝統行事の公開・後継者養成、古典に親しむ活動など、各地域の実情に応じた特色ある総合的な取組に対して支援することで、文化振興とともに地域活性化を推進することを目的としています。

市内では、関係団体によって加古川文化遺産活性化実行委員会が組織され、「文化遺産総合活性化事業」として、屋台、太鼓、獅子頭、天狗面、太鼓撥、獅子舞装束、祭礼行列装束の修理、文化遺産案内地図の作成、及び文化財ガイドボランティアの育成などの13件の事業、「伝統文化親子教室」として能楽、獅子舞、太鼓演奏、箏演奏、いけばな、茶道、俳句、百人一首・わらべ歌、伝統文化伝承などの20団体の事業などが実施されています。

この支援事業は、平成28年度までの「文化遺産を活かした地域活性化事業」の内容を引き継いだ「文化遺産総合活用推進事業」の一環として行われています。詳しい内容については、文化庁のホームページで確認し、事業の実施にあたっては、加古川文化遺産活性化実行委員会、または文化財調査研究センターにご相談ください。

加古川市文化財保護協会の会員募集

市内の文化財ならびに自然風土を保護し、これらに関する研究とその知識の普及をはかり、市民文化の向上に資することを目的として、昭和51（1976）年から活動しています。お問合せは文化財調査研究センターまで。

主な事業：機関紙の発行、文化財見学会、

文化財講座の協力

会費：一般会員 年間2,000円